

## 平成 23 年度 府立貝塚南高等学校 評価報告書

### 1 めざす学校像

校訓の「自由と規律（自己規律）」を基本に、自らが社会のルールを守り、そして、仲間と力を合わせ、よりよい社会を形成する人材育成をめざす。

そのためには、学習活動とクラブ活動の両立を図り「明るく・たくましく・心爽やかな」生徒を育成し、社会とつながる力を持たせて、社会に送り出すことが大切である。

### 2 学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会における提言内容

学校教育自己診断の結果と分析 [平成23年12月 実施分]	学校協議会における提言内容
<p><b>【学習指導等】</b>            (生徒)・学習評価の方法については、よく理解している。(47%)            ・学校へ行くのが楽しいと感じている反面、授業についてはわかりやすいと思っていない。(32%)            ・特別活動等については、半数以上の生徒が積極的に参加している。(52%)            (保護者)            ・学習評価の方法については、保護者もよく理解している。(61%)            (教職員)・学校の教育活動や教科指導については、概ね良い結果が示されている。(77%)            ・設問の「到達度の低い生徒に対する学習指導を、全体的課題として取り組んでいる。」に対する回答で「よく当てはまる」・「やや当てはまる」が8割程度であるのに、設問の「本校の生徒は、総じて基礎学力は身につけている。」に対する回答で「よく当てはまる」・「やや当てはまる」が3割程度しかない。            この結果は、「基礎学力を身につける」という課題に対して、取り組みは行なわれているが課題が解決されていないと思われるので、今後「基礎学力を身につける」ことに向けて新たな取り組みが必要であると思われる。</p> <p><b>【生徒指導等】</b>            (生徒) 学校の生徒指導方針に納得していない。(28%)            (保護者) 学校の生徒指導方針に共感している。(53%)            (教職員) 学校の生徒指導方針を理解している。(73%)            この結果は、本校では頭髪指導を含め規律指導には厳しく対応しており、特に今年度入学の1年生からは制服を改定し、スカート丈の指導を強化している事が反映しているものと考え。</p> <p><b>【学校運営】</b>            (生徒) 学校の雰囲気に満足していない。(27%)            (保護者) 学校の雰囲気がよく生徒が生き生きしていると感じている。(66%)            (教職員) 学校運営については、概ね良好であると感じている。(67%)            この結果は、本校では教員と生徒の関係は良好であるが、規律指導を厳しくし指導している。生徒が自主的に活動する場が少ないと感じており反省する面もある。</p>	<p>第1回(6/15)            ①貝塚南で定員割れが続いているのは、宣伝・PRが不足しているからではないか。もっと、広報活動に力を入れたら良いのではないか。            ②入学式のときに、同窓会の役員が、保護者から学校は不親切だと言われた。トイレの案内もないし、どこに座っていいかもわからない。もっと、学校は気配りをすべきではないか。            ③学校の廊下の床面が古くなって劣化しているので、学校は必要な部分に予算を使って、貝塚南に行きたいと思わせてもらいたい。</p> <p>第2回(12/6)            ①交通安全について、自転車通学者の指導を徹底してもらいたい。            ②学校教育自己診断の教職員の提出数が、非常に少ないので参考にならない。もう一度アンケートを実施して多くの教職員に提出してもらいたい。            ③文化祭の土曜日開催については、来場者を保護者と卒業生に限定したが、多くの人に来校してもらった。生徒は、友達が見に来てくれるともっと頑張るのではないか。文化祭を学校のPRにしてもらいたい。            ④中学校で自主的に生徒会活動に取り組んでいた生徒が、貝塚南では活躍する場面が少ないと話しているので、検討してもらいたい。</p> <p>第3回(2/21)            ①来年度中期計画に掲載された「確かな学力の育成」について具体的な内容に取り組む必要あり。            ②各教科での授業研究に対する取組や各教科から出される課題について、生徒が意欲的に取り組める内容になるよう更に工夫する必要がある。            ③外部へのアピールとして7時間目を活用した取組を検討すべき。            ④これまで、貝塚南の取組は検討時間が長くスピード感に欠けるところが有る、今後は物事を実行するときは、スピード感を持った取組をお願いしたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組み①	「生きた壁」となる教職員集団の構築	<p>ハード面では、学校経営計画の説明に際し、生徒が悩みや不安をぶつけても暖かく受け止める姿勢と、あかんもんはあかん丁寧に対応する姿勢について教職員に理解を求めた。ハード面については、施設検討委員会を中心に学年職員室の設置について検討を重ねてきた。</p> <p>その結果、2階大職員室に1年担任団の机を配置することができた。</p>	<p>ようやく1年学年職員室体制が整い、2年3年学年職員室整備も不足している机等が準備できれば実施可能となる。</p> <p>H24年度中に施設を整え学年職員室を設置し「生きた壁」となる体制を更に進める。また、早朝8時からの通学路指導にも教職員は積極的に取り組み、事故防止に努めた。次年度も継続するとともに地元警察とも連携して事故防止に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による評価 (33%) ・保護者による評価 (52%)</li> <li>教職員による評価 (58%)</li> <li>学校協議会からの評価：数値的なものはないが学年職員室設置等含め着実に進んでいると評価頂いた。</li> </ul>
取組み②	学習指導及び進路指導の更なる推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 欠席、遅刻の更なる減少に取り組む。</li> <li>② 若手教員を中心に研究授業を行い、教科指導の更なる充実につなげる。</li> <li>③ 追考査指導を更に推進する。</li> <li>④ 保護者を交えた進路指導を更に充実させる。</li> <li>⑤ 進学・就職に向けた補講を更に充実させる。</li> <li>⑥ 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用し、コミュニケーション能力を育成する</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 朝のあいさつ運動や通学路指導を通じて欠席遅刻数は減少している。(昨年度2学期末欠席3094、遅刻3996、今年度2学期末欠席2239、遅刻2794) 次年度は更なる減少を図るため朝のショートホームルームを実施したい。</li> <li>② 新規採用4年目までの教職員に研究授業を実施させ、教科指導・生徒指導等そして保護者対応等担任としての役割や心構え等についての指導を行うことが出来た。次年度は学校行事と組み合わせ、保護者等による授業評価も組み入れ、授業内容の更なる向上に努める。③補習等を含め取り組めた。特に2年生では学期末考査前に成績不振者に対して早朝、放課後講習を新たな取り組みとして実施した。次年度は1年生を中心に更なる講習に取り組みたい。</li> <li>④⑤ 進学では昨年に引き続き和歌山大学1名合格など、大学・短大でのべ202名合格等、昨年度の179名を50名上回っている。就職も厳しい中、就職希望者16名中15名が決定し、その内2名は公務員合格など、ほぼ全員の進路が決定した。また、昨年度フリーター9名から1名と大きく減少し、上々の結果となった。次年度も更なる実績を残すために継続して取り組む。</li> <li>・原級留置生徒の減少：昨年度21名から2割減少をめざし取り組んだ。結果3年3名/2年5名/1年4名の合計13名と3.8割減少した。</li> <li>⑥ 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業で、劇団員を指導者として活用し「よろずや発声法」等でコミュニケーション能力育成に取り組んだ、生徒達も興味を持って取り組み、就職や進学における面接対応及び文化祭における舞台発表など昨年より意欲的に取り組むなど成果は出ている。次年度も継続して育成に取り組む。</li> <li>・協議会からは新たな取り組みで活性化していると評価いただいた。</li> <li>生徒評価 (34%) 保護者評価 (55%)</li> </ol>
取組み③	共に学ぶ支援教育の更なる推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 様々な特性を持つ生徒達に「共に生きる」精神を醸成させ、学校に来るのが楽しいと感じる学校環境をつくる。</li> <li>② 教職員に支援教育の重要性・必要性の認識を定着させ、課題解決の方策を全員で模索する機運を醸成する。</li> <li>③ 教職員にセンター等で行われる支援教育に関する研修に積極的に参加させ、校内での伝達講習も実施させる。</li> <li>④ 支援教育委員会を更に活性化させ、適切な支援計画が作成できるよう育成する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 各学年に支援が必要な生徒が在籍しているが、全体としては良好な対応が行われている。不登校生徒についても早期に把握し支援に取り組むことが出来ている。次年度も更に支援体制を整え取り組む。</li> <li>② 「生きた壁となる教職員集団」の必要性について認識が進み学年職員室設置に向け大きく前進した。次年度には学年職員室体制を整え更なる生徒支援に取り組む。</li> <li>③ 積極的に研修に参加させたが伝達講習は教育相談係りに留まっている。次年度は計画的に伝達講習を行い、教職員全体で研修する。</li> <li>④ 人数は限られたが個別の指導計画(2学期)を作成し実施した。次年度も支援コーディネーターを中心に適切な支援計画を作成し取り組む。</li> <li>・生徒による評価 (29%) ・保護者による評価 (57%)</li> <li>・教職員による評価 (58%)</li> <li>・支援教育に関する研修に参加する教員数(昨年と同様40名)</li> <li>・学校協議会による評価：自己診断の数値では生徒からは人権について学ぶ機会が少ないとの評価、保護者・教員との開きがあるので今後検討必要。</li> </ol>

<p>取組み④</p>	<p>生徒に豊かな高校生活を送らせる</p>	<p>① 文化祭を土曜日開催とし、生徒のやる気を更に引き出す。また、「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用し、舞台発表の充実に取り組む。                  ② 1年生に対するクラブ活動の丁寧な紹介及び体験入部の実施。                  ③ 指導者がいないクラブには外部講師等の対策でクラブ指導に力を注ぐ。                  ④ 若手教員の指導者としての育成。                  ⑤ PTA、同窓会等の協力を得てクラブ活動費等の更なる援助。</p>	<p>① 学校協議会の提言を生かし、文化祭の土曜開催に取り組めた。特に劇団員を活用したコミュニケーション育成は舞台発表の充実 effected 効果があった。また、地元中学とのミニ文化祭の実施や通学路の美化活動に取り組めた。次年度は文化祭の更なる活性化と地元中学を中心に地域交流を行い更なる連携に取り組む。                  ② 全体としては豊かな高校生活を生徒達は送っている。しかし、クラブ入部率 43%を 5%アップは達成できなかった。次年度は更なる入部啓発を行い、入部率を上げていく。                  ③ ハンドボール・バドミントン・茶道・華道など外部講師による対応により指導者不足に対応できた。次年度も指導者が不足するクラブには外部講師を活用しクラブ活性化に取り組む。                  ④ 研修回数は少なかったが、様々な実践や学校運営等を通じて教職員としての資質は伸ばせた。次年度も若手教員中心に指導力育成に取り組む。                  ⑤ クラブ支援については同窓会、PTAと裁量予算（バスケットコートのライン改修や楽器購入）を活用し取り組めた。                  次年度も裁量予算等を活用し支援に取り組む。                  ・生徒による評価（43%） ・保護者による評価（65%）                  ・教職員による評価（69%）</p>
<p>取組み⑤</p>	<p>学校とPTA、同窓会との更なる連携</p>	<p>① 学校協議会にPTA、同窓会役員の参加を求める。                  ② 今年度の社会見学会をPTA組織を通じて土・日曜日に設定し、より多くの保護者が参加しやすい環境を整える。                  ③ 本行事を土日に開催することを組織として定着させる。                  ④ PTA行事を公開授業と連携させ、教職員の授業力向上と、PTA活動の更なる活性化を図る。</p>	<p>① 学校協議会委員にPTA会長・同窓会長等に参加頂き、より活発な意見をいただいた。                  ②③ 社会見学会を土曜開催し昨年より5%以上アップさせることが出来た。（H22年度40名/H23年度42名）                  ④ PTA行事を公開授業と連携させ多くの方に来ていただいた。また昨年同様、PTAに校内美化に協力していただき、築山の花植えなど、職員とも協働して実施しPTAの活性化と連携を深めることが出来た。1回目53名 2回目54名出席頂いた。                  ・次年度は補習等の指導で不親切な面が有ると指摘いただいたので、各教科には改善に向けた努力を指導するとともに、PTA・同窓会・地域と更なる連携に努める。                  ・学級懇談会参加者を90%から5%アップをめざした。                  懇談会当日には一部欠席者もいたが家庭訪問との対応により実質の目標は達成された。                  ・学校協議会による評価：PTA・同窓会役員にも協議会役員に就任いただき活発な意見交換と取組ができた。</p>